

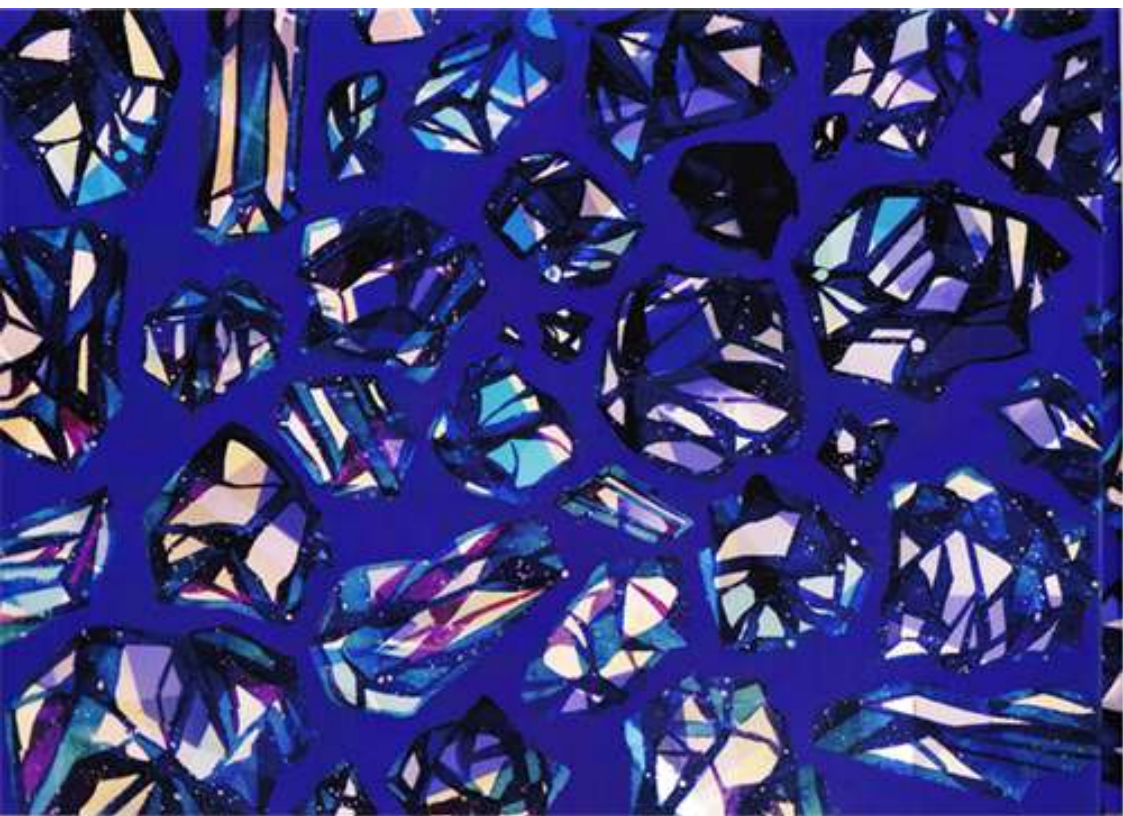


★ 星降る島のてっぺんで

ほし・よ

とろげ

ぶん・え たどころ もえこ



☆ 降る峠のてっぺんで
ほし へ とらげ

ぶん・え たどころ もえこ

こうぶつ とよばれる いしを していますか？

それは しぜんにつくられる、とてもきれいな いしのこと。

なかにはそう、ほうせき とよばれるものも あるですよ。

そのおとこのこは いつも
こうぶつずかんを もっていました。
そして まいにちあきずに
ながめてばかりいます。

かれは キラキラひかるいしが
だいすきなのです。




でもかれは とある くろいしが いちばんすきでした。
そのけっしょうは、 まわりのひかりが はんしゃすると
いっそう きれいにひかるのです。



とあるよる、 おとこのこは
いつものように ずかみをひろげていました。

「これは ルビー、
これは サファイア…」

そして しばらくむちゅうに なったあと
いつのまにか ねむってしまいました。



めがさめると、そこはどこかたかい おかのうえ。
ふしぎなことに ほしが またたきながら ふっている星しよでした。

「あれれ ここはどこだ？とっても きれいなばしよ」

おどこのこは しばらく、そのふうけいを ながめていましたが
すこしして、かぜのふいてくるほうへ あるいてみよし。

かのせいかわくきにつけて すんすんと
だれかのなくこえが きこえるのです。

A child in a red suit is walking through a dark forest at night. The forest is filled with tall, thin trees and dense grass. The scene is illuminated by a soft, blue light, possibly from a fire or a lantern. The child is looking towards the right side of the frame.

あるいてみると だんだん もりがみえてきました。
もりのなかにも おなじように ほしがおちていて きらりと かがやいています。

そのなかで ちいさくうずくまっている しょうじょを みつけました。

しろい かみとはだは ぼんやりとひかっている、
しんげつのように まっくらなワンピースを きています。

どうやら、こえのしょうたいは このしょうじょのようでした。

「なんで こんなところで ないているの？」

といかけてみると おおきなめが こちらをむきました。
キラリとまたたくほしを ちりばめたような、うつくしいひとみでした。

「こんばん、ちかくで ぶとうかいが あるの。
でも、わたしみだいな じみなドレス、きつとほかにいないわ。」

かのじよの めもとは ずっとないていたせいか
すっかりあかく なっていました。





そのすがたが、あまりにかわいそいで、
おとこのこは、けっしんしました。

「それなら、ぼくがいっしょに
いってあげるよ。」

まわりのほしを、あつめると、
べったんべったんと、ランピースに
つけていきます。



「それにきつと、これをつければ、もっときれいだよ。」

しょうじょは、すこしびっくりしながら
でもうれしそうに、わらいました。

さあ、ぶとうかいの、じかんはもうすぐです。
ふたりは、てをのいで、むかいました。



ぶとうかいは それはそれは しんびり ばしょでした。

いろとりどりのふくを みにまとったひとたちが
パートナーと くるくるおどっていて
とても、それはもう とてもきれいなのです。

おとこのこは わたされたマントを つかって
どうにかとりつくろうと いろいろちでかたまっている
しょうじょに こえをかけました

「さあ ついたよ おどっておいでよ。」
「むりよ だってわたし こんなの。」

しょうじょは まだ じしんが もてないようでした。

「うーん、それなら ぼくといっしょに おどるかい？
むかし おゆうぎかいで ほめられたことがあるくらいだけど
ダンスには じしんがあるんだ。」



ひんやりした てをとると しょうじょは すこし ゆうきをもらった ようでした。
とんとんとん… と ぶたいのうえへ あがっていきます。



ゆったりとしたおんがくが ながれはじめて
さあ、いよいよ。

うんたった
うんたった
うんたったった…




さいしょこそ きんちょうして かちんこちんのおどりをしていた しょうじょも しばらくすると はねのように なめらかに おどりはじめました。



そしてくるりとわまると—





くろいワンピースが まわりのいろをとりこんで
きらりきらりと ひかりはじめたではありませんか！

うんたった
うんたった
うんたったった

ステップにあわせて もっと
ひかりがはんしゅして

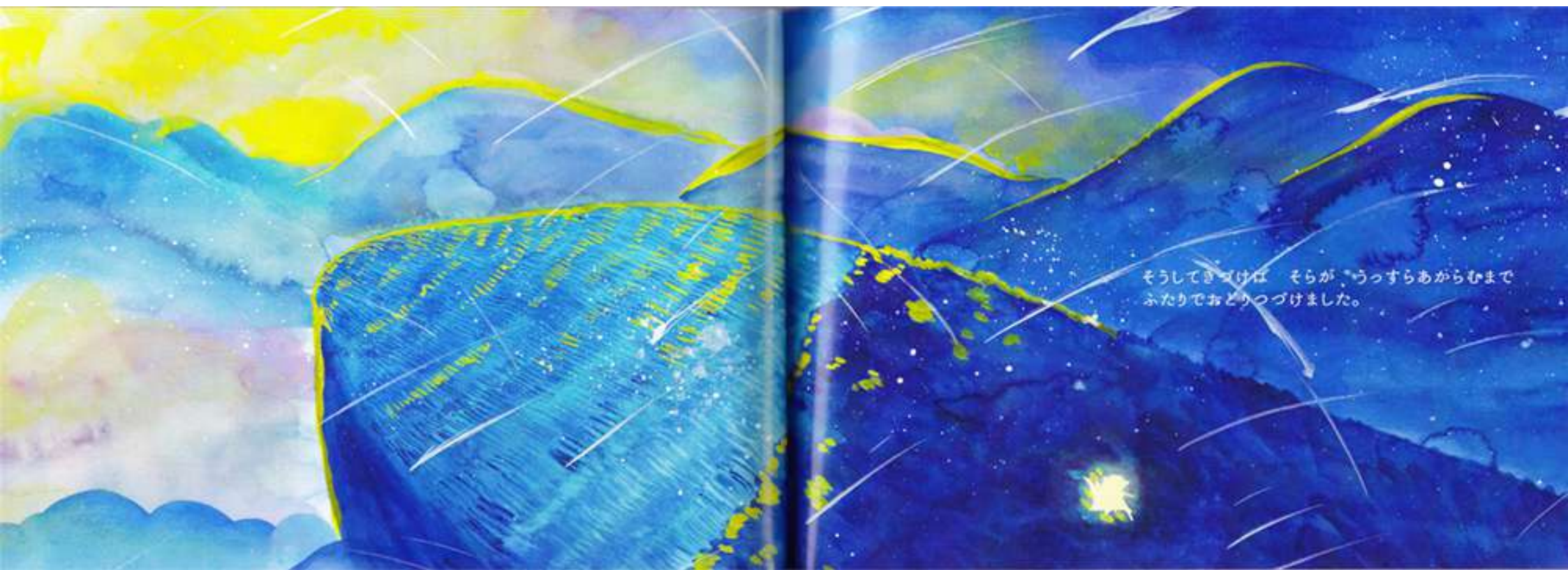
うんたった
うんたった
うんたったった！

なんどもまわれば もうそこは かのじょのためだけの
ぶたいのようにさえ かんじます。



あまりにきれいで、おとこもついで
みとれてしまいました。

じょうじょはまちががなく、そのぶないで
いちばん、かがやいていたのです。



そうしてきつければ そらが、うっすらあからむまで
ふたりでおどりつづけました。




「とてもたのしかったわ。こんなにきもちよくおどったの
うまれてはじめてよ。ありがとう」

ふたりは ほしのたくさんちっている。そうげんにいました。

あさびが じわっと かおをだしています。

「そろそろ…かえらないといけないね」

だってここきたのは きのうのよる。
もうずいぶん じかんがたっていました。



「またいつか ここであえたら
いっしょに ダンスをおどりましょう。」

ぼんやりとしたあさやけが とけはじめました。

「この、ほしふるとうげの てっぺんで。」



たったんた

たったんた

たんだか ダンスのリズムに にているなあ

「ごはん さめちゃうわよ」

ききなれたこえが きこえます。

まどからはサンサンと ひざしが ふりそいでいました。
そとはもう すっかりあさです。

あれはゆめだったのか

おとこのこは ねぼけながら おもいました。



たように てらされたまどが きらりと ひかっとき、
くろいワンピースをきた あのしょうじょの わらいごえが
かぜにのって きこえてくるような きがしました。

